



真宗高田派本山 専修寺  
高田 本山だより

令和6年 秋号

139



高田本山 HP

令和6年秋号(第139号) / 発行・令和6年9月1日 / 〒514-0114 三重県津市一身田町2819番地 TEL 059-232-4171 www.senjuji.or.jp

今回の高田派青年の集いは、栃木県真岡市高田の本寺専修寺で開催されました。

新会長就任の記念大会として法嗣殿ご出席のもと、全国各地から次世代を担う大勢の後継者が参加し、盛会となりました。



高田派青年の集い



歴史まるごと体験塾



高田派婦人連合大会

## 物語を聞く



二〇二〇年の二月の終わり、世界がコロナ禍に突入する直前に、インドを旅しました。その時に訪れたインド南東部のアマラヴァティという小さな町には、お釈迦さまのお骨（仏舍利）をご安置したと言われる仏塔（ストウーパ）の跡があります。

紀元前三世紀、アシヨーカ王の時代に作られたその仏塔は、後の時代に段階的に増築されます。ドーム型の仏塔の周りを欄楯と呼ばれる石の柵で囲い、そこにお釈迦さまの生涯や前世の物語が描かれるようになります。現在は、直径五〇メートル、高さ二メートルほどの土台部分と、わずかに残された欄楯の一部だけが、当時の面影を残しています。

当時のインドの人々にとって仏

塔は、単にお釈迦さまのお骨をご安置した場所というだけでなく、お釈迦さまの生涯や前世を体験し、お釈迦さまの存在をより身近に感じる場所でもあったのでしよう。欄楯に描かれた物語を通して、お釈迦さまの智慧と慈悲に触れ、それを人生の指針としていく。そんな信仰の拠りどころでもあったのでしよう。

浄土真宗では、「南無阿弥陀仏」のお念仏を聞かせていただきます。たった六字の短いお言葉ですが、その背後には、思いはかることのできない壮大な物語があります。私たちは、その物語を聞かせていただくのです。阿弥陀さまが、なぜこの私を救うという願いをおこされたのか。その願いを成就するた

めに、どれほどのご苦勞をされたのか。そして今、どのようににこの私を救おうとされているのか。その物語を、親鸞聖人は「仏願の生起本末」とおっしゃいます。私たちは、その物語を通して阿弥陀さまの智慧と慈悲に触れさせていただくのです。その中で、自身が煩惱具足の凡夫であり、同時に必ず仏と成らせていただく身と知らされるのです。そして、凡夫の身を恥じ、仏と成らせていただく身にふさわしい生き方をしたいという思いが少しずつ育てられていく。それが阿弥陀さまの救いであり、浄土真宗の仏道なのでしよう。

大阪組 大乘寺副住職

吉尾真祐



アマラヴァティ仏塔跡

御本山御用達

**鍵長法衣仏具店**

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）  
電話 (075) 371-0854・8181~2番  
FAX (075) 344-2701番  
振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年

**松井建設株式会社**

取締役社長 松井隆弘

執行役員支店長 野村守宏

本社 東京都中央区新川一丁目17番22号 ☎03-3553-1150  
名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号 ☎052-249-4771

「どうして佛壇の花の瓶(花瓶)には龍が巻いて珠を持っているんですか？」

二十五年ほど前、あるご法事の席で小学生の男の子に質問をされました。当時大人気だったテレビ

アニメ「ドラゴンボール」(鳥山明原作)の影響であったと思われれます。アニメでは龍の珠を集めると何でも願いを叶えることが出来るというストーリーでありました。

お佛壇の花瓶には様々な形がありますが、高田派では伝統的に珠を持った龍が巻きついている佛具もよく使われています。

龍は古来インドでは、暴風雨や恵みの雨をつかさどるものとして信仰されていました。

佛教においても、初期の佛典や大乘經典・密教經典など多くの經典に佛敎の守護者として描かれています。佛伝においても、釈尊ご誕生の龍王灌水や、乳粥供養の

宝鉢や、菩提樹に向う釈尊を讚歎(成道)など重要な場面に数多く龍が登場します。

龍の珠は「如意宝珠」といいます。如意(思いのごとく)なる宝珠(宝の珠)。意のままに様々な願いをかなえる宝です。この意味がアニメのストーリーに関係しているのだろうと考えられます。

しかし浄土真宗では、自己中心的な凡夫の勝手な願い(欲望)を叶えてくれるのではなく、龍の珠の意味は、浄土を願い佛道を歩もうとする心を育むはたらきがあるということなのです。

佛様の願いを思いのごとく(如意)聞かさせていたたくわが身となれるのです。

親鸞聖人の現世利益和讃八首目  
南無阿弥陀佛ヲトノウレバ  
(南無阿弥陀佛を称えると)

難陀跋難大龍等

(難陀龍王・跋難陀龍王をはじめとする八大龍王や)

無量ノ龍神尊敬シ

(その部下の数限りない龍神がとうとみ敬い)

ヨルヒルツネニマモルナリ  
(念佛の人を夜昼常に護り給う)

このご和讃に龍(龍王)がうたわれています。当時の字も読めず佛法に触れることもなく、占いや祈祷で現世利益の息災延命や七難消滅などを求め、苦しみ悩む人々に「南無阿弥陀佛ヲトノウレバ」

と、廻りまわって苦しみを超越することを得ると、龍王をおして念佛をおすすめてくださっているのです。

南無阿弥陀佛を称えたならば、往生浄土の道を歩ませていただく心を育み護ってくださいます。龍も珠もそのことを教えてくださいます。

高田本山にも龍の姿がたくさん見えます。御参拝時には、何体お見えになるか数えてもらうのも楽しいかと思えます。

(教学院第三部会)



花 瓶

「燈炬殿だより」

## 生きたみ教えと宝物館

専修寺の宝物館燈炬殿の役割には、親鸞聖人の興された高田派の教  
学や文化、またその発展の歴史を示  
すこと、さらに、み教えの精神が今  
も皆さんの心に生き生きと受け継が  
れていることを示すことの二つがあ  
ります。

教学・文化・歴史を示すことの一  
環として、今年も宝物館では仏教文  
化講座に合わせて特別展観「学山高  
田」(2024年8月1日(木)～  
9月29日(日))を開催します。茶  
の湯を始めとする文化に造詣の深  
かった円猷(えんゆう)上人と、宗  
学を専門に研鑽する堂舎であり、現  
在の高田学苑の前身にあたる勸学堂  
を創設された円遵(えんじゆん)上  
人にスポットをあて、江戸時代の中  
後期、教学・文化に一つの隆盛期を  
迎えた「学山高田」について紹介い  
たします。とりわけ、美術工芸品の  
展示の構想策定や出陳品の選定に当  
たっては、法嗣殿に大層ご尽力いた  
だきました。

次に、今もみ教えの精神が生き生  
きと受け継がれていること、これ  
端的に示すことができたのが、今年  
の春に開催の『影印 翻刻 現代  
語訳 顕正流義鈔』出版記念 真慧  
展」です。そもそもこの書の現代語  
訳の作業が平成十一年から二十四  
年の歳月をかけて行われたこと自体  
さらには、展示品をお借りしたあち  
こちの寺院で真慧上人ゆかりの様々  
な法宝物が大切に守りつがれてい  
ること、これらのことは五百年以上  
の歳月が経ってなお真慧上人のみ教  
えを尊び敬愛する心が生きているこ  
とをはつきりと示しています。

さて、夏の専修寺と言えば、蓮。  
共同で蓮のオーナーになっている京  
都の友人に送る写真をとるため、ほ  
ぼ毎朝境内に赴いています。夜明け  
前に唐門をくぐって蓮の鉢の方に向  
かって歩いていきますと、如来堂から  
出てこられる妙齢の女性からご挨拶  
をいただきます。ご飯講のお勤めを  
終えて戻られるこの女性の上品な笑



「勸学堂」扁額と尾崎繁男氏制作の架台

みからは、阿弥陀様やお聖人への帰  
依のお気持が生き生きと伝わってき  
ます。

今夏の特別展観「学山高田」では  
円遵上人が掲げられた「勸学堂」の  
扁額も展示します。扁額を支える架  
台は、尾崎繁男氏の作品です。勸学  
堂の精神を力強く支え、しかも装飾  
的要素も入れてとの意気込みで作っ  
ていただきました。架台ひとつから  
もみ教えが生き生きと受け継がれて  
いることが読み取れます。

今後とも宝物館燈炬殿では、高田  
派のみ教えの優れた伝統・歴史、そ  
してみ教えが今も皆さんの心に有  
形・無形を問わず生き生きと受け継  
がれていることを示して参ります。

(宝物館燈炬殿館長 大野照文)

ええじゃないか  
〜いい旅いい発見〜  
毎週月曜日 よる7時  
(毎週土曜日 ひる12時再放送)  
TVで見直し配信中!

三重テレビ放送

ニュース情報番組  
Mieライズ  
毎週(月)～(金)  
夕方5時40分から生放送  
三重テレビアプリで  
簡単メッセージ!

高田本山御用達  
三重県仏教会御推薦  
石碑  
記念碑  
燈籠

高級御影石専門店  
御影石材株式会社  
(石に御用の方は) イシニヨコネ  
☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)  
☎059-224-1700(代)

## ■高田本山講員募集■

高田本山では、本山行事等にお世話いただく講社の講員さんを募集しております。真宗のみ教えを学び、現代の人々に真宗のすばらしさをお伝えする妙好人となって、第2の人生を本山でご奉仕してみませんか。

「講社とは」

檀信徒で構成する本山奉仕団体で、篤信の方々をはじめ各地区の有志に参加していただき、講員としての活動をします。特に参拝者の接待や参拝の便宜を図ると共に、聞法や研修に務めながら、本山護持に寄与して頂きます。

### 1 奉仕内容 募集要項

講社名	奉仕内容
御飯講	毎朝の御仏飯のお世話・お非時のお世話・宿坊のお世話・両堂警備
御廟講	納骨に関するお世話・行列のお世話
賽銭講	両堂のお賽銭の管理・両堂警備
用度講	行列のお世話・お非時のお世話・宿坊のお世話・両堂警備

- 奉仕場所 高田本山内
- 奉仕時間 当番は9:00~15:00(講によって奉仕時間が異なります)
- 奉仕条件 高田派の寺院に所属する檀信徒
- 募集申込 下記へ問い合わせ下さい

問い合わせ先 〒514-0114 津市一身田町 2819  
真宗高田派本山宗務院 ☎(059) 232-4171



## 第五十四回お七夜献書展

左記の課題で第五十四回お七夜献書展の応募作品を募集しています。詳細は高田本山HPを参照、もしくは宗務院(☎059-232-4171)までお尋ねください。

### 第五十四回お七夜献書展課題 作例

みち  
たかだ たろう  
幼児

ほう  
小一 高田たろう  
小1

大行  
小二 高田太郎  
小2

帰命  
小三 高田太郎  
小3

平等  
小四 高田太郎  
小4

の不退  
小五 高田太郎  
小5

他本  
小六 高田太郎  
小6

広施功德宝  
中一 高田太郎  
中1

転悪成徳正智  
中三 高田太郎  
中3

不可思議功德  
中二 高田太郎  
中2

願以此功德 平等施一切  
同発菩提心 往生安楽国  
高田太郎

南無阿弥陀仏をとふれば 十方無量の諸佛は  
百重千重圍繞して よろこびまもりたまふなり  
高田太郎

高校・一般

人口減少社会へ突入した地域に必要なのは「お寺」だと思う。

村話から生まれる情報発信や  
P.O.E-Shopを採りこぼす!

三重に暮らす・旅するWEBマガジン

OTONAMIE

otonamie 14,500フォロワー突破!

mail otonamie@gmail.com

tel 059-268-3538 (善印刷工業株式会社)



お寺の実績  
紹介記事

お寺とともに  
地域をつくる。

## 永田文昌堂

最新刊

### ①親鸞と現代

武田 龍精著 定価3,080円(税込)

主に、阿弥陀如来と凡夫存在の不二的關係論、宗教多元時代における浄土教の脱構築の問題、核兵器の時代における「生老病死」、宗教と現代宇宙論、宗教と科学のあいだに関する課題、仏教思想とホワイトヘッド哲学について考察する。

京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031

最新刊

### ②真宗からの華嚴・天台読本 1 經典編

北塔 光昇著 定価1,980円(税込)

一仏乘の基本的な宗旨に華嚴宗と天台宗があげられ、これらは真宗僧侶が親鸞聖人の教えを学ぶ基礎学として非常に重要である。この書では華嚴・天台の教義を学ぶ前提として、それらの根本經典の内容を真宗との関係をも考えながら概観する。

こんな行事がありました

## 第五十七回 高田派婦人連合大会

令和六年六月二日（日）に第五十七

回高田派婦人連合大会が行われました。

法主殿のお言葉のあと女性の「祖師  
寿」表彰が執り行われました。講演は

本願寺派布教使、武蔵野大学生涯学習講座講師の小  
笠原博慧先生で、話題は「つくべき縁 はなるべき縁」  
でした。

「祖師寿」表彰とは親鸞聖人が九十歳にてご往生  
されたことから、九十歳になられた檀信徒をお祝い  
する表彰です。今大会の申請は三七六名、うち十九  
名の方がご出席いただき、法嗣殿より直々にお祝い  
を受けられました。



## 歴史まるごと体験塾

七月三十日～三十一日に、津市生涯学習課主催  
の「歴史まるごと体験塾」が開催されました。小  
学校五～六年生対象で定員は三十二名でしたが、小  
すぐに定員を超えたため抽選となりました。最初  
は知らない人たちがばかりで不安そうな皆さんでし  
たが、本山や一身田寺内町を探検したあと、和菓子・  
こんにやく作り、昔遊び体験などを通して、いつ  
ぺんに友達になりました。



和菓子やこんにやくを作りました



学んだことを班ごとに発表します

伝統を引き継ぐ左官職人舎

一層築舎

Sochikusya Co.,Ltd

伝統的な社寺建築、古民家や一般住宅・店舗の修繕、リフォーム、  
リノベーションなど、自然素材を活かした壁や空間を提案します。

建築工事 / 左官工事 / 外構工事 / 現場施工管理

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35

TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627

E-mail : souchikusya@gmail.com URL : <https://tutikabe.net/>

法衣・仏具製造及び販売



井筒法衣店



代表取締役社長 今岡規代  
●本社  
600-8468  
京都市下京区堀川通  
新花屋町角（西本願寺前）  
Tel 075-351-1234  
0120-0757-720  
Fax 075-341-7905  
●東京店  
160-0008  
東京都新宿区四谷  
二栄町十四番地11  
Tel 03-3358-1300  
Fax 03-3359-8902

オンラインショップはこちらから →

# 高田派青年の集い 本寺大会

六月二十九日（土）～三十日（日）、高田派青年の集い本寺大会が開催されました。

今回のテーマは「念仏高田の源流」とし、大会初日は本寺で開会式を行い青年会会長に就任された法嗣殿よりお言葉を頂戴し、念仏高田の源流について高田派鑑学、栗原廣海師にご講演いただきました。

二日目は稲田の西念寺、結城の稱名寺を参拝いたしました。

四十名の青年寺族が参加し、高田派の原点である本寺に於いて、念仏高田のみ教えを再認識した、有意義な大会となりました。



# 仏教文化講座

八月一日から五日まで、高田会館ホールにて第九十八回仏教文化講座が開講されました。一六七二年より始まった僧侶の為の研鑽「夏安居」が、大正十五年から仏教文化講座として開講された歴史ある講座です。

初日は、法主殿が「三日市の民俗信仰とその起源」の講題でご講義をされ、鈴鹿市三日市の伝承をもとに、その起源を述べられました。

二日目は、大谷派親鸞仏教センター副所長の加来雄之先生が「危機の時代と真宗における実践―安田理深の僧伽論に学ぶ―」の講題で、真宗の共同体、真の共同体を生きることの大切さをお話いただきました。

三日目は、信州大学名誉教授の牛山佳幸先生が「信濃善光寺史と善光寺信仰の展開」の講題で、現世と来世の救済をかなえてくれる仏として、人々に受容されていったとお話いただきました。



四日目は、大谷大学名誉教授の草野顕之先生が「親鸞伝の史実と伝承」の講題で、親鸞伝で語られる様々な伝承を、三つのカテゴリーに分けて読み解いていただきました。

最終日は、高田派鑑学の清水谷正尊先生が、「親鸞伝絵の成立とその内容」の講題で、制作年代の検証をしながら、廟堂建立の推移、畳の描き方の変遷など事細かに高田本の史実を論証されました。

期間中は、酷暑にもかかわらず熱心な聴講者たちで賑わい、今回も大盛況のうちに終わることができました。

# プラレール マルシェを開催

六月一日（土）・二日（日）主催…一身田商工振興会 後援…津市教育委員会による地域イベント「プラレールマルシェ」また七月六日（土）には一身田七夕まつりが開催されました。お子様はもちろんたくさんのご家族連れで賑わいました。



# 竹あかり募集のお知らせ

前回の報恩講（お七夜）期間中、竹あかりアーティストの川渕皓平氏の演出で、広大な境内いっぱい竹あかりで仏さまのお浄土を表現しました。結果、東海最大級の約3,000本の竹あかりイベントとなりました。

今回から一般公募を行います。皆さまお誘いあわせの上、お申込みいただきますようお願いしております。



・ライトアップ期間  
令和7年1月9日（木）  
～15日（水）  
宗祖親鸞聖人の報恩講  
（お七夜）期間中  
点灯：16時30分  
閉門：19時00分  
※ただし、9日は法会終了後、17時40分頃より点灯式を行います。  
※15日のみ、閉門：23時30分  
・会場  
真宗高田派本山専修寺境内  
くわしくは高田本山ホームページをご覧ください。

## 蓮まつり

毎年全国から多くの方が蓮を見に本山を訪れます。池を埋め尽くして咲く蓮池と、境内に配置された135鉢の蓮は、近年高田本山の夏の風物詩として全国的にも認知されてきたようです。

さらに今年は6月20日から8月16日の間に「蓮まつり」が開催され、高田会館の新入社員が開発し、三重テレビでも紹介された『蓮氷（はすごおり）』や、満開の蓮を見ながらの蓮ビアホールまで開催され、過去最大の賑わいを見せました。

来年もぜひご参拝いただきますようお願いしております。



## 水屋を修理しています

唐門横の水屋の修理をしています。ご参拝の皆様にはしばらくご不便をおかけいたします。



## 法会・行事案内

- 第三十回 法話発表会 九月五日
- 讚佛会 九月十九日～二十五日
- 仏教保育本山合同参拝 九月二十日
- 第四十九回 住職補任研修会 十月八日九日
- 第七十五回 檀信徒研修会 十月十七日
- 第二十九回 教学院研究発表大会 十月三十一日
- 納骨堂法会 十一月三日～四日
- 秋法会 十一月五日～十日
- 資堂講法会 十一月八日～十日
- 中興上人御正當 十二月八日～十日

寺院名

宝開 国公 どこでもつながる国宝彫刻群

高田本山 デジタルブック 検索

<http://www.senjujor.jp/nihonhaku/digitalbook/index.html?pNo=1>